

令和7年度 日田まつり振興会ポスターデザインコンペ仕様書

1 趣旨・コンセプト

日田市のイメージアップと全国へより効果的に情報発信を行うことを目的に、応募者それぞれのコンセプトに基づいた、統一感のあるデザインのポスターを制作するもの。

2 デザイン仕様

(1) 内容

まつり・イベントの趣旨やコンセプトが伝わるポスターであれば表現は自由。

(2) サイズ

A1 (タテ)

(3) 必ず入れる情報

○大分県日田市

○まつり・イベント名、開催日、主会場、その他

まつり・イベント名	開催日	主会場	その他
① 2025 日田祇園 ② 第37回日田祇園山鉾集団顔見世	① 2025年7月26日(土)・27日(日) ② 2025年7月20日(日)	② JR日田駅前	ユネスコ無形文化遺産登録、重要無形民俗文化財
① 第46回日田天領まつり ② 第21回千年あかり	① 2025年11月8日(土)・9日(日) ② 2025年11月7日(金)11月8日(土)・9日(日)	(主会場) 豆田地区、月隈公園周辺	
第43回天領日田おひなまつり	2026年2月15日(日)～3月31日(火)		同時期に開催されるイベント(豆田流しびな他)
第79回日田川開き観光祭	2026年5月23日(土)・24日(日)	日田市三隈川周辺、JR日田駅南広場、中央公園及びパトリア日田	

○主 催

2025 日田祇園・第 37 回日田祇園山鉾 集団顔見世	日田祇園山鉾振興会／日田まつり振 興会
第 46 回日田天領まつり・第 21 回千年 あかり	日田まつり振興会／千年あかり実行 委員会
第 43 回天領日田おひなまつり	日田まつり振興会
第 79 回日田川開き観光祭	日田まつり振興会

○問い合わせ先

日田まつり振興会事務局（日田市観光課） TEL 0973-22-8210

日田市観光協会 TEL 0973-22-2036

○日田市観光情報ウェブサイト（『日田市のおまつり』で検索 のアイコン）

○日田市観光協会ウェブサイト（『水が磨く郷』で検索 のアイコン）

（4）その他

他市を連想させるものは、なるべくメインモチーフとしないことが望ましい。

3 参考

日田祇園・日田祇園山鉾集団顔見世

（1）開催趣旨

日田の祇園祭は、疫病や風水害を払い、安泰祈念を目的に、1714 年から豆田・隈で本格的な曳き山が作られるようになり、明治末からは現在のようになった。祇園囃子は 1817 年頃代官所の目明 小山徳太郎によって始められた。

一方、集団顔見世は、祇園祭は隈・竹田地区と豆田地区で開催されていることから、それぞれの地区において4基の山鉾が集合していたが、日田祇園を全国にPRできる観光資源とするため、平成元年から各地区の8基の山鉾と平成山、合計9基の絢爛豪華な山鉾が一同に会する集団顔見世を開催するようになり、平成20年からは、現在の晩山での開催となった。

（2）主な内容

祇園囃子の音色とともに高さ 10mにも及ぶ山鉾を曳く男衆の勇壮な掛け声が響きわたる祇園祭は、毎年、7月20日過ぎの土・日に行われる。疫病や風水害を払い、安泰を祈願する祭りで約300年の伝統を持つ。豆田、隈、竹田地区では絢爛豪華な山鉾が町並みを練り歩き、夜には提灯を飾りつけた優美な晩山巡行で祭りは一気に盛り上がる。また本巡行前には、JR日田駅前に全9基の山鉾が一堂に会する集団顔見世が行われる。

日田天領まつり

(1) 開催趣旨

日田は、1594年（文禄3年）豊臣秀吉の蔵入地として代官所が置かれ、以来、二度ほど大名支配も行われたが、それ以外は江戸幕府の天領（直轄地）となった。とりわけ、1686年（貞享3年）以降は日田の陣屋（御役所）にあって、郡代の天領支配が行われた。豆田、隈の両町をもつ日田は、九州の政治、経済の中心地として栄え、富裕な商人が、掛屋や大名の御用達として活躍した。当時、江戸や大阪・京都、長崎との経済や文化の交流も多く、日田には文人墨客が訪れ、俳諧、文人画、茶道等の町人文化も栄えた。整然とした町割りを持つ豆田町には、今も江戸時代の建物が点在し、当時の面影をとどめている。その時代を今に伝えようと昭和54年に天領日田のイメージアップと市民意識の高揚の為、日田天領まつりが始まった。

(2) 主な内容

江戸時代、幕府の直轄地「天領」として栄えた日田市で、その栄華を今に再現する『日田天領まつり』は、毎年11月第2週の土・日に、月隈公園や豆田町周辺で行われる。各所で様々な催しが繰り広げられるほか、月隈公園周辺の天領屋台では地元や県内の食を味わうことができる。

まつり一番の見所は、日曜日に行われる「西国筋郡代着任行列」で、時代装束を身にまとった総勢二百人の行列が、豆田の古い町並みを練り歩く。

千年あかり

(1) 開催趣旨

平成17年に豆田地区の地元有志の実行委員会により始められた「まちおこし」行事。「自由の森大学」の学長をしていたTVキャスターの「筑紫哲也」さんの番組（ニュース23）で紹介され、全国的な知名度を得る。

竹伐採は、山の杉やヒノキを竹の浸食から守る目的をかねており、伐採した竹を利用することで「伝統的建造物群保存地区」に指定されている豆田地区と、「水郷ひた」のシンボルの一つでもある花月川に約3万本の竹灯籠を敷きつめ、幻想的な雰囲気を出している。

(2) 主な内容

実行委員会により運営されるイベントで、竹の切り出しから、加工、装飾、点灯をボランティアで行っている。初日の金曜日の夕方は点火式が開催され、イベントが開始される他、訪れたお客様が点火体験できるイベントも準備されている。

天領日田おひなまつり

(1) 開催趣旨

1984年（昭和59年）に草野本家が始め、1989年（平成元年）に隈地区が参加し『天領日田おひなまつり』として豆田・隈地区に広がっていった。

(2) 主な内容

旧家に伝わるひな人形を一斉公開。

日田川開き観光祭

(1) 開催趣旨

もともと川開きは、納涼開始を祝う行事として、今から約 300 年前、江戸は両国川ではじめて行われたといわれる。このとき打ち上げた花火は、川の神への献火の意味があったとのことである。招魂祭は明治元年太政官令により京都・東山に安政大獄以来の国事殉難者と戊辰の役の戦死者慰霊のためにはじまり、翌年には神仏儒の総祭にとられない形式をとった。

日田の招魂祭はその祭礼で、儀式が次第に娯楽化し、衣裳を凝らして鳴り物入りで街を練り歩く祭礼に変わっていった。「博多どんたく」の影響もあって、三味線にしゃもじをたたいて廻った。その後、戦争で途絶えていたが、昭和 23 年に「川開き観光祭」として復活。戦後は軍国思想の追放で招魂の意味が消え、町内ごとにレコードに合わせた芸能隊を練り出すようになった。

(2) 主な内容

多数の団体が華やかな衣裳をまとい、自慢の踊りを披露する市民芸能隊をはじめとして音楽大パレードや特大の桶を使った名物行事ハンギリ源平合戦など、たくさんの催しが練り広げられる。又、最大のイベントであります花火大会は、両日共盛大に行われ、2日間で約 10,000 発の花火が夜空を彩る。盆地で打ち上げられる日田の花火は体感花火として知られ、反響する花火の音を全身で感じることができる。